

<熊本支部例会事前抄録>

日時:2024年1月9日(火)19:30~

会場:添島歯科クリニック研修室

— 一般講演抄録 1 —

シングルクラウン症例におけるジルコニアディスクと製作法の選択

森田圭介 株式会社愛歯 〒869-1102 熊本県菊池郡菊陽町原水 2849-1

■抄録

1998年にデグデント社(現デンツプライシロナ)がセルコンシステムを発表し、2002年にノーベルバイオケア社が焼結ジルコニアを用いたフレーム製作法を提唱してから(ノーベルプロセラシステム)四半世紀が経過した現在、歯科用ジルコニアは大きく進化を遂げてきた。

近年においては、2016年に東ソーからZpex4というジルコニア粉末が市販され、3Y-4Yや4Y-5Yといった混合組成積層型(TZP-PSZ)のマルチレイヤーディスクが主流となっている。これは、従来のプリシェード層を4~9層に重ねた単一組成積層型よりも天然歯の構造に近い透過性とグラデーション構造を有しており、より審美性と機械的安定性の高いモノリシッククラウン(フルジルコニア)の製作が可能となった。しかしながら、材料の恩恵を受ける反面、症例に応じた補綴設計と製作法、材料選択はより複雑となる。

今回の症例はマイクロレイヤリング法を用いたシングルクラウンのケースになるが、製作法変更の変遷からジルコニアディスク選択を踏まえてご紹介したい。

本演題に関して開示すべき利益相反はありません。